



## 小学部 学部授業研究会実施

小学部 1、2年の遊びの指導で学部授業研究会が行われました。今回は、授業研究会の様子についてお伝えします。

### 小学部1、2年 遊びの指導 わくわく・しんぶんし！～ゆりどうぶつえんであそぼう～



<授業者のしかけ>  
導入での新聞紙を使ったマジックショー  
～本児の遊びの興味、期待感を高めるために～



<児童の様子>  
・?ボックスがワクワクする仕掛けで、何が出てくるか興味をもって見ていた。本時で提示する教材が出てきて、話しながら説明するより、関心をもって見ていた。



<授業者のしかけ>  
新聞紙カーテンを使ったダイナミックな遊び  
～合同学習だからこそできるダイナミックな遊びの保証～



<児童の様子>  
・真っ先に新聞紙カーテンを引っ張ろうとしていて、みんなが楽しめていた。一つの教材にみんなが集まっており、効果的だった。



<授業者のしかけ>  
なかよしペアの設定  
～友達への意識、2年生は上学年としての意識～



<児童の様子>  
・回を重ねるごとに2年生が1年生に対して誘う場面が見られ、1年生も手をつなぐようになった。チケットがあり、ペアで入場する必要があり、関わろうとする姿が見られた。



<授業者のしかけ>  
カバの登場  
～遊びに変化をもたせる、場面転換～



<児童の様子>  
・カバに関わろうとみんなで集まることができて、なかなか自分から関われない児童もカバの中に入って、同じ場を共有することができた。

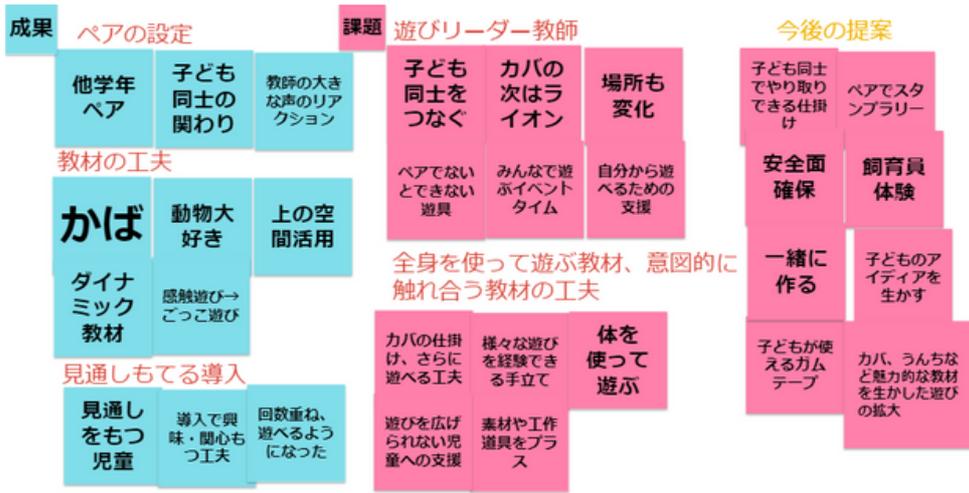


<授業者のしかけ>  
教師が遊び方の見本を提示  
～教師も児童と一緒に一生懸命遊ぶ～



<児童の様子>  
・新聞紙を丸める、ちぎるなど、新聞紙カーテンがなくなった後も、遊び方の見本をまねる児童がいた。教師が積極的に遊びをリードするより「一緒に」「発展するきっかけづくり」のスタンスで支援したため、児童の主体的な姿があちこちで見られた。

実態が幅広い集団の中で遊びへの興味・関心を広げるための教材教具の工夫や遊びのアイデア



**【協議で話題になった内容】**

- ・仲良しペアの設定が効果的。
- ・かばの登場で楽しそう。
- ・新聞紙を題材にした遊びの設定で様々なコーナーが充実。
- ・感触を楽しむ児童や遊び方を工夫している児童などがいた。
- ・大人がモデルとなり、遊ぶことで子どもも楽しく遊ぶ。

【今後に向けて】

- ・子ども同士でやりとりができる仕掛けを作る。
- ・ペアでの活動を工夫し、スタンプラリーなどをして遊ぶ。
- ・子どもの発想やアイデアを生かし、大人と一緒に物を作ったり、一緒に遊んだりする。
- ・安全面などもう一度検討し、遊びの場作りをする。

講評 秋田大学教育文化学部 名誉教授 武田 篤先生

【講評】

- ・研究主題の「学びをつなぐ」をどのようにイメージするか、様々な捉え方があると思う。カリキュラムマネジメント、教科横断的な発想で考えてほしい。
- ・小一中高卒業後をどのようにつなぐか、何をすべきか、卒業がゴールではない。生涯学習を含め、長い時間軸で考えればよい。
- ・研究テーマに迫るために授業のどの部分が研究テーマとどのようにつながっているか考える必要がある。
- ・遊びの中で、児童に考えさせる工夫、子供同士の対話の促進をどうするか。遊びの中で大事なことは、学びは個人ではなく、協働で学び合えるようにしてほしい。
- ・教師が遊び方を先導していくことで、新しい遊び方が広がる。
- ・「ヒト」と「モノ」をつなげて「コト」にしてほしい。教師主導の遊びではないことを教師が徹底しないと遊びは成り立たない。

遊びの指導の方向性

